

釜ヶ崎講座ニュース No.6 2

2021年3月15日

釜ヶ崎講座

大阪市港郵便局私書箱 40 号
大阪市西成区萩之茶屋 1-9-7
釜ヶ崎日雇労働組合気付
事務局 090-2063-7704
Mail kamakouza@cwo2.bai.ne.jp
<http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>
郵便振替 00940-1-132778

会員・読者のみなさん、釜ヶ崎講座です。日頃のご支援・ご協力に感謝申し上げます。また、このたびも年末・年始にかけ、みなさんからカンパを頂き、紙上を借りまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の「釜ヶ崎講座ニュース No62」では来月 4 月 17 日に開催する「第 18 回学習会」の予告並びに最近の講座の活動を報告させていただきました。同封資料は上記学習会の案内のほか釜ヶ崎の動きを伝えたニュースを入れております。よろしくお願いいたします。

1. 「第 18 回釜ヶ崎講座学習会」を開催します。

ハンセン病問題から何を学ぶか第 2 弾！！

～『家族訴訟』 ハンセン病家族訴訟は

終わっていない！～

のテーマで

日時 2021年4月17日（土） 18：30～21：00

（開場 18：00）

資料代 500円

会場 太子福祉館

大阪市西成区太子1-4-3 太子中央ビル3階

JR「新今宮」駅東口 徒歩3分

大阪メトロ「動物園前」駅6番出口 徒歩1分

話題提供者 黄 光男（ファンゲンナム）さん

ハンセン病家族訴訟原告団副団長

ビデオ上映 『邑久光明園』（20-30分）

なお当日 you tube ライブ配信予定！！

{ライブ後も視聴できる予定} ~ご希望の方は、前日4月16日までに、連絡先メールアドレスと「ライブ配信希望」の旨を釜ヶ崎講座(kamakouza@cwo2.bai.ne.jp)までお送りください。当日18時20分過ぎにURLをお送りします。~

※新型コロナ感染予防措置にご協力お願いします※ （検温・マスク着用等）

みなさん、昨年2020年12月8日、福田佳昭さんを話題提供者にハンセン病問題の中味、歴史を説明してもらいながら第1回目として学習会を開催することができました。今回は「ハンセン病問題から何を学ぶか・第2弾」として当事者・家族の視点で黄光男さんに問題提起をして頂きます。国の長年にわたるハンセン病患者への絶対隔離政策の中で、監視と差別に抗しながら「ハンセン病家族訴訟」原告団副団長として闘いを牽引されてきた当事者・家族からのお話と訴えです。今回も是非、皆さんと共に「ハンセン病問題」の共有の深化を深めて参りたいと思っております。宜しく願いいたします。

2. これまでの釜ヶ崎講座の取り組みの報告

① 第17回釜ヶ崎講座学習会が開催される

「ハンセン病問題から何を学ぶか」で福田佳昭さんが

国からの差別・強制隔離と患者の自主決起の歴史を語る

皆さん、昨年12月5日、西成・太子福祉館にて「第17回釜ヶ崎講座学習会」が15名のライブ視聴参加者、会場に35名、計50名の参加で開催されました。

今回、話題提供者になっていただいた福田さんは70年当初から釜ヶ崎の運動に真摯に向き合われ、現在、釜ヶ崎支援機構で働く傍らで「ハンセン病問題」に取り組んで活躍されています。

福田さんはお話の中、「明治維新」を体験してもなお、人を尊重できない感覚をもった歴代政府が営々として続いたこと、そしてハンセン病患者を絶対隔離政策の鎖で縛り付け、近年まで公式の謝罪と救済をしなかったこと、それを助けたのが私達市民の無知から導かれた差別意識の積み上げであったことを語りました。質疑応答ではなぜ長年、医療や行政分野でおかしいと声は上がらなかったのかという素朴な質問が上がり、福田さんはこの国にある「あつれきとしがらみ」を打ち破れない人権運動の弱さを述べました。そしてハンセン病問題はいまだ解決途上であること、「菊池事件」や訴訟裁判の動向への理解と協力を訴えられてこの学習会は終わりました。ご参加の皆さん、ご苦勞様でした。福田さん、スピーチ有難うございました。

② 第51回釜ヶ崎越冬闘争闘いぬかれる

～釜講座も12月31日に連帯の行動、

明けて新年には3日に釜歩きツアーを挙行～

2020年12月28日の越冬突入集会から明けて2021年1月4日まで第51回釜ヶ崎越冬闘争が打ち抜かれました。今回越冬の特徴はコロナ禍状況の中、感染防止の徹底が実行委員会で時間が割かれました。すべての仲間が安心・安全の中で行動がとれる手だてが話し合われました。このために「越冬祭り＝ステージライブ」が中止となりました。大々的な呼びかけはしないことで、期間中の参加者は少なかったものの、かえってカンパの金額は例年を大きく上回り仲間の力強い支援を感じる事となりました。また今回はコロナ解雇・失業のさ中での支援対応が展開されました。「新型コロナ住まいとくらし緊急サポートプロジェクト osaka」が12月30日～1月3日に越冬のたたかいに並行して緊急相談会を持ち、失業・困窮に苦しむ人にアプローチしました。

厳冬とコロナ不況の中、今年も臨泊入所者274名、センター周辺を中心に野宿の仲間も60名あり、路上で越冬をするこの社会の構造はなんら変わっていないことをあらためて示しました。失業、野宿からの脱却の仕組みづくりの運動がさらに強められなければなりません。

釜ヶ崎講座は12月31日に「越冬闘争連帯行動デー」を実行しました。当日は東北、関東からの学生の人2名、東海地方から1名の人の参加を頂き、人民パトロールでは50名の仲間と共になんば・戎橋方面へ野宿の仲間への激励と95年に若者に川へ投げ込まれて殺された藤本さんへの追悼行動におもむきました。

新年2021年1月3日には恒例となりました釜歩きツアーが挙行され、約20名の参加を得て、水野阿修羅さんの案内で釜ヶ崎を歩きたずねました。釜日労前を出て、北シェルターから今宮小・中一貫校、建設中の星野リゾート、太子方面、大衆演劇場等へと歩きました。

「故郷の家」を今回はお借りして、参加者一同で感想を出し合いました。出された内容は障がいをもつ人の流入の増加と仕事求人からの排除、ここへきての若者グループの徘徊の増加やベトナムの人の流入、若い人の職業訓練の問題、セクシャルマイノリティ問題等でした。水野阿修羅さんは受け答えの中で、「今後も大阪・釜ヶ崎に来れば何とかなるという状況は続くだろう。実は入るも自由、出るも自由が街として大事なことでその中で互いを認め合うことが『弱い者』の排除を防ぐことにつながる」と語り、人と街の自立と共生のバランスの大切さを述べました。今回ツアー参加の皆さん、ご苦労様でした。協力を頂いた水野さんをはじめ他の皆さん、ありがとうございます。（以上この項おわり）

◆事務局から～ 釜ヶ崎講座は皆様のカンパにて運営されております。振込用紙を同封しておりますので、宜しく願いいたします。◆ 以上

